

第11号
平成22年11月

北野町連だより

夢とロマンのあふれるまち

発行者
北野地区町内会連合会
会長 濱田英彦

題字 木村信也氏（南北野）

大成功の第20回北野ふれあい夏まつり!!

-17町内会・自治会延べ400名のボランティア支援で-

7月24日(土)、数えて第20回目の夏まつりが、今年も厚別川親水公園と中央公園で盛大に行われました。24日未明の豪雨、“今日はもうダメか”と思いながらも、一抹の期待で天気予報の雲の動き



テントの設営

前7時半も過ぎていました。こうして、実行委員の責任者6名の決定で開催の花火が景気よく打ち上げられたのです。

今回は、少し違った方向からおまつりを見てみましょう。さて、どの位の人達がスタッフとして関わっているのでしょうか。ひとくくりにしていると、延べ400名の方々が17町内会・自治会からボランティア参加をしてくださっています。ごみの分別収集、交通指導整理、会場設営、安全対策のための要所要所の見張り等長時間にわたる肉体労働をはじめ、裏方の仕事を黙々とこなしてください感謝の言葉もありません。会場を

賑やかにする出店と舞台、催しもの、そして夜のフィナーレ花火へと華やかに時間は流れていきます。これらに長時間たずさわる人達の声は、その反対に枯れ果てる程になります。

次は、費用のことです。昼の部は出店の売上と町連の負担金です。夜の花火は町内会と企業の協賛金で賄っています。札幌有数とも言われる立派な花火を打ち上げられるのは、皆様の気持ちの積み上げの



ごみ分別担当

おかげです。ここまで北野の花火を育ててくださってありがとうございます。

過去20回を振り返ってみても、幸い大きな事故は起きておりませんが、川近くの行事では子ども達の安全はもっとも気をつかうところです。多少厳しく規制していますがご賢察ください。

昼の部で約1万人、花火で約2万人の方々に楽しんで頂きましたが、さらに、地域の皆様方のお知恵を拝借して、おまつりを一層みのあるものにしていきたいと思います。

(濱田英彦)



夢にむかって

第11回北野福祉まつりを終えて



健康チェックの部屋



人気キャラクターと…

10月31日晴天に恵まれた秋の一日、「つなげよう広げよう福祉のまち北野」のスローガンのもと大勢の地域の皆さんにご参加を頂き、多数のボランティアスタッフの方々のご支援にあずかり第11回北野福祉まつりが無事終了致しました。

昨年は新型インフルエンザの大流行で断念せざるを得なかった福祉まつりでしたから一層力が入りましたが、皆さんには喜んで頂けたでしょうか。今後とも、皆さんの英知を頂きながら、健やかな子育て・安心な老後となる福祉のまちづくりに取組んで参ります。

(一瀬ヒロ)



子どものひろば(バルーンアート)



喫茶「ナナカマド」(すてきな飾り付け)

— ごみステーションの除雪は利用者の協力で — (丹治)

子どもの安全を守る活動～小学校と地域の連携～

北野地区では、地区内の北野、北野平、北野台の三つの小学校と地域が連携して、子どもの安全を守る活動を進めています。小学校の近くの交差点や通学路付近で、登下校時に腕章や防犯パトロールのジャンパーを身に着けた地域のボランティアが、子どもたちが安心して学校に通えるように交通安全指導や見守り活動をしています。

交通安全指導では、札幌市交通安全運動推進委員会（昭和37年設立）から委嘱された交通安全指導員が、小学生の登下校時の指導や交通安全運動等のボランティア活動を行っています。春、夏、秋の交通安全市民総ぐるみ運動には北野地区の小学生も、交通安全指導員やスクールガード、町内会・自治会関係者、保護者と一緒に学校付近の幹線道路での旗振り等の啓発活動に参加しています。



集団下校訓練（北野小学校）

見守り活動はスクールガードの方々やPTA、町内会・自治会などのボランティアの活動に支えられています。スクールガードは、札幌市教育委員会が平成17年度に導入した制度で、スクールガードに登録した方々が学校や通学路近辺を巡回することで、不審者に対する警戒になるとともに、犯罪防止にも効果を上げています。



交通安全市民総ぐるみ運動（北野平小学校）

子どもたちが身の危険を感じた時、一時的に避難できる場所として「子ども110番の家」があります。北野地区では平成14年から協力世帯の募集を始めました。協力世帯の玄関にステッカーがはられ、多くの地域住民が加入しています。

警察や区役所などから不審者情報が出された時

には集団下校が実施されています。各小学校のホームページにも不審者情報が発信されています。



地域の交通安全指導（北野台小学校）

各校それぞれ独自の取り組みもみられます。

- ・北野小では、十二支の呼び名をつけた校外班で集団下校訓練・下校指導を毎月実施、年一回保護者引取訓練が実施されています。

- ・北野平小では、学校と地域の方々との情報交流の機会として、交通安全指導員、各町内会のスクールガードが参加して、年2回スクールゾーン実行委員会を開催しています。

- ・北野台小では、土曜参観日にPTAの親父の会の方が非常食試食の機会を設け、地域の方の防災意識を高め、また、緊急時に備えてのマニュアルを全家庭に配布し協力を呼びかけています。

このように、地域や保護者の方々から温かく見守られ、育てられることにより、子どもたちも地域の一員としての自覚が生まれ、やがて地域の未来を担う立派な大人に成長してくれるよう各校とも努力しています。子どもたちの安全を守るために、より多くの地域の皆さんとの活動への参加、協力をお願いします。

〈災害時助け合い活動の取組み〉

「災害は忘れた頃にやってくる」とは以前のこと、昨今では日本各地はもちろん世界のあちこちで連続して大きな地震災害や気象災害がいとまもなく発生しております。

近いうちに必ず札幌でも大きな災害が発生することを予想して、町連の22年度重点事項に“防災への取組み”を掲げて取組んで参ります。

その具体策の一つとして、「北野地区災害時助け合い活動」のしくみづくりに17町内会・自治会が取組んでおり、推進の中核は北野地区福祉のまち推進センターが担っております。併せて清田区社会福祉協議会等のご支援をいただきながら、「いざ!」という時に役立つものにしたいと工夫しています。

一方、10月8日には北野防災研究会も立ち上げました。（詳しくは「北野防災ニュース」にて）

北野けいじ板

北野まきば町内会は、昭和56年に「高野第5」「親和」「共栄」の三町内会が合併して現在に至っています。335戸、800人程の比較的小規模の町内会です。年齢構成は65歳以上が31%を占め、少子・高齢化が着実に進行しています。「まちづくりは人ととの交流から」の理念を基に「安心安全の住みよいまちづくり」を目指し、平成22年度事業計画は次の4点を重点にして鋭意取組んでおります。

◎「まきばサロン」を拠点とする会員相互の交流活動推進

◎情報の共有、情報開示の徹底(広報紙『会報まきば』、『さらんニュース』等の発行)



居酒屋「たそがれ」(毎月第2日曜日)

◎まきば秋まつりの開催

◎まきば防災活動の推進(まきば「自主防災計画」作成中)。

これらの重点の取組みのうち、特に平成17年に開設され年間5千人が利用している「まきばサロン」を通じて、まきばの町には確実に新しい交流、お付き合いが生まれ出ているを感じます。サロンは交流を生み出すきっかけの場で、多様な同好会、イベント等を通じた人々の交流は語り合う心、思いやる心、支え合う心を育んでいます。この活動がひいてはまちづくりの原動力となる糸を醸成していくものと信じています。



手芸サークル「ひまわり」(毎週金曜日)

北野グリーンタウン自治会は、世帯数116戸と小さく、とても良く意志疎通のとれている自治会です。例年7・8月は自治会行事が続き、とくに女性部員に協力をお願いしてひとつひとつ実施しています。

まず最初は、小学校の夏休みと同時スタート



の朝6時半からのラジオ体操(約2週間)。高齢化社会の表れでしょうか?、例年、子どもよりも大人の参加が多くなりびっくりです。8月に入りますと早々に七夕まつり。朝の体操どきに、飾りとなる短冊を大人にも渡して、夢・希望などを書いて頂き、柳の枝に飾り付けています。

今年は、女性役員のアイデアで七夕のいわれを説明し、子ども達は興味深く聞いていました。また、会場内にはヨーヨー釣りのプールも準備し、一層楽しいイベントになりました。ここ数年、我が自治会の転入者には子どものいる家族が多く、この七夕まつりには32名の子ども達の参加をみました。

最後は、毎年恒例となっている8月20日前後に開催の「夏まつり親睦会」です。この催では、肉、生ビール、バーベキューコンロも用意し、毎回80名程の参加者で楽しんでおります。

いずれも長く続けていきたい企画と考えています。



楽しい夏まつり

我が町内会の近況と運営について



北野新和町内会
会長 奥山 正美

当町内会は、昭和48年に発足し今年で37年目を迎えました。発足当時、加入者は45世帯でしたが、現在107世帯で運営しております。会員の高齢化が進む中、若い世代の会員も新規加入しております。

活動面では、春・秋の環境美化の公園及び厚別川堤防の草刈り・清掃、春の清田消防署協力による防災訓練等に多くの会員が参加しております。

また、町連主催の北野ふれあい夏まつり、子どもみこし、四町内会合同の盆踊り大会等にも、役員はじめ多数の会員が参加しております。

古老をたずねて②

「親に心配かけないことが親孝行」と母の口ぐせでした!!



荒井 喜一 氏
(大正13年9月6日生、南北野在住)

今も現役で会社経営〔有〕喜栄興産代表される荒井さんは、七人きょうだいの5番目(長男)として生を受けました。3歳8か月の幼少の時お父さんと死別し、お母さんの愛情ではぐくられました。

満20歳の昭和19年9月、軍隊の甲種合格で陸軍北部第四部隊(旭川市)の衛生兵として、約5か月間の入隊経験をしております。

現在満86歳の荒井さんですが、長年水田専業農家として誠実に努力されたご様子が言葉のはしひから強く感じられるとともに、地域住民の生活安全のために多くの社会奉仕を率先垂範取組んでおられます。その中でも、約50年間にわたり消防団活動を積極的に続け、地域住民の生命・財産を守るために心血を注いで来られました。平成10年4月には、その功績が認められ「勲六等瑞宝章」受章の栄に浴されております。

ここで、荒井さんに過去を振返って頂きますと、まず、子どもの頃に「親に心配をかけないことが、親孝行なんだよ!」と母が口ぐせのように言っていたことが心に強く残っているそうです。次に、

今後も、会員が安全で安心して暮らせるために、高齢者の見守り、不審者対策、災害発生時助け合い体制の確立、環境美化の更なる充実、青少年育成等々、解決すべき課題に取組んで参ります。

さらに、社会情勢の変化や価値観の多様化等により町内会活動のあり方も問われており、山積する課題を乗り越えるためにも、従来からの固定観念にとらわれず知恵を出し合い、着実に取組んでいくことが大切であると考えております。

構成員107世帯と小さな町内会ですが、会員全員が気軽に参加できる町内会活動を目指し、役員一同で努力しているところです。

水田づくりでは、何と言っても「水の確保」が大切であり、用水組合をつくって協同で厚別川(現清田中学校付近)から取水口を設けて水の確保に工夫したこと。また、中学の頃、身長158cm、体重53kgぐらいで陸上競技100m走13秒フラット、走り幅跳び4.65mを跳んで優勝し若き血潮に燃えたこと。他多くの思い出を語ってください、奥様はじめご家族の取材ご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。
(聞き手:赤坂治雄)

北野まちづくりセンターより

「まちづくり」とは…… だれもが快適に暮らせるようにするための活動のことです。日頃から町内会を中心として行われている地域の清掃や花植えなど、一人ひとりが力を合わせて暮らしやすいまちをつくる活動も「まちづくり」です。

ですから、「まちづくり」には、環境、防災、防犯、福祉、交通安全など様々なものがあり、簡単に定義することは難しいのかも知れません。具体的な活動例としては、「家の前や近所の清掃活動」「お年寄りの除雪のお手伝い」「ごみステーションの設置や管理」「地域の見守り」「木や花を植える活動」などが挙げられます。

このように、ちょっとした身近な日常活動の中に「まちづくり」のネタがあり、すでに皆さんも何らかの形で「まちづくり」活動に参加されていらっしゃるのではないでしょうか。

お知らせとお願い

※下段にのせる標語の投稿を皆さんからおまちしております。投稿された方には記念品をさし上げます。投稿先は、北野まちづくりセンターに協力をお願いしております。(☎883-0373)

印刷 社会福祉法人 北海道リハビリテーション研究会の特集を入れており、古老を訪ねて復活しました。(赤坂)

編集後記

8日に発足した北野防災研究会の特集を入れており、古老を訪ねて復活しました。特に今号では、10月に発足した北野防災研究会の特集を入れており、古老を訪ねて復活しました。また、子どもたちの三小学校安全を守るために、地域との連携の様子をとりあげてみました。北野ふれあい夏まつりの裏方には、北野ふれあい夏まつりの裏方に触れて頂きました。また、子どもたちの三小学校安全を守るために、地域との連携の様子をとりあげてみました。北野ふれあい夏まつりの裏方には、北野ふれあい夏まつりの裏方に触れて頂きました。